

## 9月メディア総局長定例記者会見要旨

冒頭、私から今月9日にNHKに通知されたBS1スペシャルへのBPOの意見書についてお話をさせていただく。この番組について、BPOからは、取材、編集、試写の各段階に問題があったというご指摘があった。さらにデモや広い意味での社会運動に対する関心が薄かったというご指摘、取材相手への配慮や誠意を欠いていたなどのご指摘をいただいた。いずれも真摯に受け止めている。番組にご協力いただいた監督の河瀬直美さんをはじめ、公式記録映画の関係者のみなさま、インタビューに答えていただいた男性など、取材にご協力いただいた方々、さらに、五輪反対デモに参加したり主催されたりした方々、そして視聴者のみなさまに重ねて深くお詫び申し上げる。2015年のクローズアップ現代の出家詐欺問題で打ち出した再発防止策が、きちんと機能しなかったということを重ねて受け止めている。今月12日には、全国の取材・制作に携わる職員を対象にメディア総局長指示を出した。今回のBPOのご意見を職員一人ひとりが重く受け止め、日々の業務に向き合うよう求めた。また、15日には、メディア総局の幹部を集めた緊急の「放送倫理委員会」を開催した。取材や制作のあらゆる段階で真実に迫ろうという放送の基本的な姿勢を再確認し、再発防止に取り組むよう、私から指示した。事実を正しく把握し、正確に放送するというNHK放送ガイドラインの原点を改めて確認するとともに、再発防止を着実に実行し、徹底させていくことで、視聴者のみなさまに信頼される番組作りに努めていきたいと考えている。

### (1)秋からの新番組と開発番組（林メディア総局長）

10月からのNHKは、さまざまな新番組、特集編成、展覧会などが目白押しだ。後期に入るにあたり、今年度ここまでの分析も踏まえて、視聴者・ユーザーのみなさまの興味・関心にお応えするラインナップを揃えた。そのポイントをご説明していくが、その前に、地上波の改定率42%と大きく変えてきたこの半年間を振り返る。今年度は、時間帯ごとにターゲットを明確にした「ゾーン編成」を強化した。そして、そのターゲットに届いているのかを、この4月に発足したマーケティングセンターと、コンテンツ戦略をつかさどるメディア戦略本部が中心となって分析し、制作現場とともにPDCAを回している。今年度前期、NHKは、テレビ離れが進んでいると言われるなかであっても、昨年度の同じ時期と比べた総合テレビの個人視聴率のリーチの落ち込みを、最小限に抑えていると考えている。中でも、「大人の教養・エンタメゾーン」と位置づけた、総合テレビの平日午後10時台は、現役層を中心に一定の成果が出ている。総合テレビ午後11時台の「若年層向けゾーン」は、3か月ごとに多彩なコンテンツをお届けしている。このゾーンは10代から20代の男性によく見られるなど、ターゲットに届いている番組もあった。「幼児・子ども番組ゾーン」としたEテレ午後6時台も、一定の成果が見られた。

ここからは、新たなラインナップを紹介する。先ほども触れた「若年層向けゾーン」、総合テレビの午後11時台。まず月曜日は『ヒロイン誕生！ドラマチックなオンナたち』。いまでも多くの人たちに影響を与え、社会の土台を作ってきたそれぞれの時代のヒロインの足跡を、ドキュメンタリードラマで紹介する番組だ。火曜日の『100カメ』は第1クールで一旦、放送を終えたが、若い女性層によく見られるなどの実績を残した。また、終了後もSNS発信を継続し、フォロワーが増え続けている。第3クールで再び登場させ、ファンの皆様の期待にお応えしたいと思っている。水曜日は『ゲームゲノム』。昨年度、開発番組としてお届けした番組を定時化することにした。さらに、若者向けコンテンツとして、Z世代を強く意識したEテレの特集番組を1つ紹介する。『とまどい社会人のビズワード講座』。難解なビジネス用語を、King & Princeの永瀬廉さんと一緒に学んでいく番組で、開発番組として4月に放送して、20代女性に比較的好く見られたものの続編だ。さらに、ドラマも新しいシリーズが数多く始まる。まず、連続テレビ小説『舞いあがれ！』は10月3日にスタートする。『夜ドラ』の新シリーズは、10月10日からの『つまらない住宅地のすべての家』。『夜ドラ』としては4シリーズ目となる。これまで、ミステリーや、ほっこりするドラマ、お仕事ものと、さまざま試してきたが、若年層にも少しずつ定着しつつあり、NHKプラスでもよく見られている。今度のシリーズは、イノッチこと井ノ原快彦(いのらはら・よしひこ)さんが主演の、ユーモラスなホーム・サスペンス・ドラマにチャレンジする。ほかにも、新しく始まる番組があるので、詳細は資料をご覧ください。

(詳細は報道資料を参照)

## (2)NHK発！鉄道150年キャンペーン（熊埜御堂メディア戦略本部長）

ことし10月14日は、鉄道が新橋－横浜間に開業してからちょうど150年となる日。この節目に合わせ「NHK発！鉄道150年」というキャッチコピーのもと、地域放送局とも連携し、鉄道に関するさまざまな番組やデジタル企画をお届けするキャンペーンを実施する。キャンペーンの案内役は、NHKアナウンサーきっての鉄道ファンである糸井羊司アナウンサー。普段は「正午のニュース」や「大河ドラマ紀行」のナレーションを担当している。今回、様々な関連番組や企画を、ホームページやミニ番組などで紹介する役割を担う。NHKは、これまで様々な鉄道関連の番組を放送し、ご好評をいただいていた。こうした過去の番組も積極的に活用し、全部で70本以上の番組を地上波・衛星波・ラジオで放送する。鉄道の魅力だけでなく、旅番組など、地域の魅力を再発見できるラインナップとなっている。関連番組のうち、地上波で放送する番組については、NHKプラスでもプレイリストを作り、まとめてご覧いただけるようにする。また、関連番組の情報をまとめた特設HPもオープンしている。さらに、150年のメモリアルデーとなる10月14日には、「#NHK鉄道の日」という共通ハッシュタグを使い、全国の地域放送局と連携したSNS企画も実施する。全国ネットワークをいかして、地域からも鉄道の日を盛り上げる。また、首都圏ナビのホームページでは、みなさんの撮影した“いちオシ”の写真を募集中。身の回りの駅や鉄道など、とっておきの景色や地元のおすすめスポットの写真を募集し、その一部を「ひるまえほっと」など関東地方向けの番組内で紹介させていただく。これら、鉄道150年キャンペーンの取り組みについて、ご期待いただきたい。

（詳細は報道資料を参照）

## (3)芸術の秋 貴重な文化財を 4K8K の超高精細映像とリアルイベントで（山内メディア戦略副本部長）

上野にある東京国立博物館の創立150年を記念する特別展が、10月18日から開催される。所蔵する約12万件の文化財の中から、国宝89件すべてを含む150件の名品が紹介される特別展だ。NHKの8K映像技術と3DCGを駆使した特別企画「未来の博物館」も同時に開催される。国宝「洛中洛外図屏風」に描かれている京の街を体感できるなど、新たな鑑賞体験をお楽しみいただける。

NHKは、この特別展と特別企画に合わせて、多彩な関連番組を放送する。開幕前には、BS4K、8K、BSプレミアム3波同時生中継で、見どころを紹介します。また、俳優・本木雅弘さんが、超一流の美術品と向き合う『アート疾走』や、超高精細映像を用いて夢の鑑賞法を黒島結菜さんが体験する特別番組、さらには「歴史探偵」や「英雄たちの選択」などでも、東博150年の歩みに迫る。この夏は、BS4Kや8Kで「長岡の花火大会」や「秋田大曲 全国花火競技大会」を生中継して、大変多くの方にご覧いただいた。「芸術の秋」は、貴重な文化財の魅力を、リアルイベントや超高精細映像、そして多彩な番組で余すことなくお楽しみいただきたい。

（詳細は報道資料を参照）

## (4)国連SDGメディアコンパクト NHK&民放6局連動キャンペーン(林メディア総局長)

今年の夏も日本や世界各地を異常気象が襲った。また、ロシアのウクライナ侵攻で、深刻なエネルギー危機も浮き彫りになり、脱炭素社会の実現に向けた課題が突きつけられている。NHKと民放キー局（日本テレビ、テレビ朝日、TBS、テレビ東京、フジテレビ）は、6局連動で、国連と「SDGメディア・コンパクト」加盟メディアによる共同キャンペーンの一環として、さまざまな情報発信を通じ、気候変動対策のアクションを呼び掛けていく。まず、今月19日に公開された動画は、NHKと民放6局が制作した。気候変動アクションの啓蒙に繋がる研修やイベントなどの場では、無償でお使いいただける。また、この動画をベースにした英語のコンテンツを、国連総会のハイレベルウィークに開催されるSDGメディアゾーンにオンライン出展する。このコンテンツは9月23日から国連のサイトで配信される。そして9月25日には、今回のキャンペーンの旗印となるスペシャル番組を放送する。番組では、NHKのスタジオに民放キー局のキャスター、科学者、若者代表が集い、気候変動について一緒に考え、私たちテレビメディアが気候変動対策に取り組む姿もお伝えする。スタジオなどの美術セットには、環境に配慮したリユース・リサイクル素材を活用し、環境負荷の削減に努めた。また、番組制作に関連して排出されるCO2の量を算定する「アルバート」と呼ばれるオンラインツールを、実験的に導入し、番組制作におけるCO2の「見える化」と「削減」の課題を探る。

NHKは、公共メディアとして、民放のみなさんとも協力し、気候変動という人類共通の課題を、幅広い層に訴えかけていく。「1.5℃の約束」の実現に向けて、今、私たちに何ができるのかをメディア自身が率先して考えて、一人ひとりが行動を起こす良い契機になればと思っている。ご家族揃ってぜひご覧いただきたい。

（詳細は報道資料を参照）